

銘柄分析レポート：製造派遣

1 はじめに

2008年（平成20年）のリーマンショックを契機とした金融危機は、未曾有の世界的大不況をもたらしました。

自動車や家電など我が国の製造業は、在庫の山を抱え、業績が大幅に悪化します。

そのしわ寄せは、派遣労働者にきました。マスコミ報道により「派遣切り」という言葉が広まったのもこのときです。

現に、製造業務に従事していた派遣労働者数は、平成20年の56万人から平成21年の25万人と、半減以上の落ち込みを見せています。

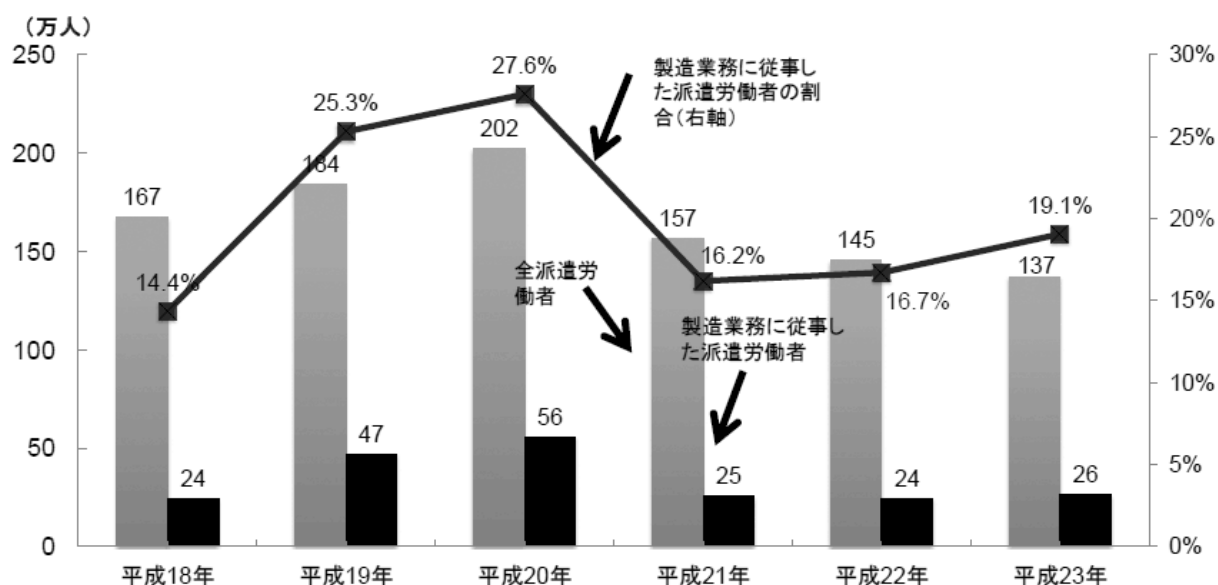
製造業務への派遣、いわゆる製造派遣の歴史は割と新しく、規制緩和の一環として、小泉政権下の2004年に解禁されたばかりです。

今まで順風満帆だった製造派遣各社も、初めて経験する逆境に苦しめられました。しかし、そういったときほど、経営者にとっても投資家にとっても千載一遇のチャンスでした。

淘汰に生き残った企業は、そのあと訪れる景気回復局面において、残存者利益を満喫できるからです。

今回の銘柄分析レポートでは、製造派遣大手を取り上げます。

★派遣労働者数の推移（製造業務に従事した派遣労働者）



出典：厚生労働省